

①

あら…あなたは…？

こんな夜明けに、何か御用でしょうか…？

①

「自分が、どこから来たか思い出せない」……？

あらあら、それは困りましたね……

①

でもそもそも、ここは普通の人はずそう立ち入れない場所のはずなのですが……

あなた、何者ですか……？

②

お母さん、どうしたの？

何かあった？

③

あれ……人がいる？

うそ…誰か来ることなんて、あるんだ……？

①

普通はありえないわ。

どうやら何かの拍子に、迷い込んでしまったみたいね……

②

迷い込んだって…なんか怪しくない？

コイツ……

③

見た感じは、悪い人じゃなさそうだけど……

①

ダメよ、困っている人にそんな風に言っちゃ……

もしかしたら何か事故に遭って、記憶喪失なのかもしれないし……

②

だって、そいつから……

何かヘンな感じするんだもん。

③

う、うん…私も……

なんだろ、どう言えばイイのか分からないけど……

①

やめなさい、二人とも……ごめんなさいね、失礼な娘たちで。

……ここは「大間良（おおまら）神社」といいます。

住んでいるのはとある大切な使命を神様から授かった、巫女である私たちだけ……

②

っていうかフツーは入って来られない、神聖な場所のはずなんだけど……

あんた、何者なの？

③

結界だって、ちゃんと張ってあったのに……

私が、未熟だったからかな……

①

なににせよ…ここに来られたということは……

あなたがきっと、例の「大間良神（おおまらがみ）の使い」なのでしょうね。

②

え…この人が……？

ちょっ……そんなわけないでしょ……！

③

ど、どういうこと…？

この人……お父さんと同じってこと…？

②

ありえないってば…こんな人が……！

③

じゃあ…私たち、この人と……

①

そういうことになるわね……

もしだったら、おもてなししないと……

でも……

①

ごめんなさいね。

失礼な言い方をしてしまうけれど。

あなたからは、ひどく禍々しい「邪気」のようなものを感じます。

①

その正体は何なのかは分かりませんが……

いずれにせよ、結界を越えてココに来てしまった以上、

あなたは人間良神から「選ばれた」ということ。

①

本来なら巫女として、おもてなしするのが習わしなのですが……

とはいえ、あなたから発せられるその正体不明の「気」は捨ておけません……

①

今晚はこちらに泊めてさしあげあげますから……

まずは私たちの「お祓い」を受けていただけますか？

②

えっ…？

そ、そんな……うちに泊めるの？

①

ええ…泊まっていたいて…一日かけて。

我が神社に伝わるお清めの「儀式」を受けていただきましょう……

①

その結果、もしその「気」が祓えれば、改めて……

「大間良神の使い」として、彼を迎え入れることにしましょう。

③

ぎ、儀式って……

まさか……アレのこと……？

①

ええ…教えてきたとおり、ふたりとも……分かるわね？

②

ちょ、ちょっと待ってよ…

心の準備が……

③

わ、私も……こわいよ……

うまくできるかわかんないし……

①

大丈夫…ちゃんと最初は、私がお手本を見せるから…ね？

②

ま、まさか…今日がその日だなんて……

急すぎるんだけど……

③

ごくっ……

アレを…やらなくちゃ…いけないの……？

①

さあ…こちらへ…

迷い込んだのであれば、きっとお疲れでしょう。

大したものはありませんが、まずはお食事でも……

③

あっ…あの…その……何がなんだか、よく分からないかもしれないけど……

ようこそ、私たちの、神社に……！

②

もう、むやみに話しかけちゃダメだってば……！

まだ何者か、分からないんだから……

③

ごっ…ごめんなさい…！

それじゃあ、とにかくこちらへどうぞ……！

中で、待ってますね……

②

い…言っとくけど…私は認めてないからね。

あなたみたいな人が……神の使いだなんて……

②

いきなりやってきて…納得できないわ……

「儀式」で…その化けの皮、全部剥いでやるんだから……！